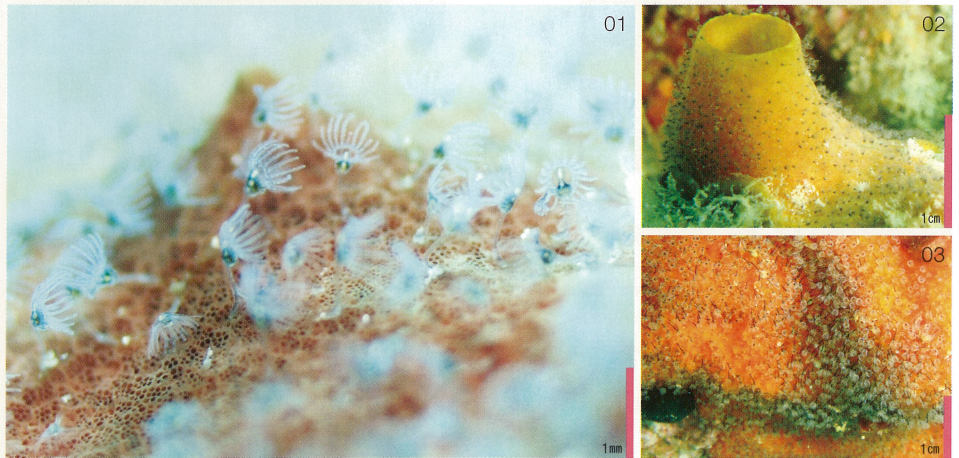


# 広瀬研だより ちよっとトリビアな無脊椎動物の話

Text=Rie Nakano  
Photo=Tohru Iseto, Nagisa Sugiyama

## 第3回 カイメンにつく 内肛動物に 誰かステキな 名前をつけて！



(01) 杉山さんが2年間万座に通って観察を続けた内肛動物。伊勢戸&杉山師弟によって最近 *Loxosomella plakorticola* という学名がつけられた。(02) 煙突状のカイメンに付くタイプ。(03) 柄部が黒いタイプ。表面の〈ふさふさ〉感がわかる。(04) 水中で内肛動物を観察中の杉山さん。お手製の方形枠の中を撮影して、枠の中に内肛動物が何個体いるかを毎月計測、季節による変化を調べた。さらに有性生殖または無性生殖をしているもの、それぞれの割合を調べた。2年間観察し続けた結果、万座の *L. plakorticola* は季節を問わず不規則に増減し、ほぼ常に無性生殖で増えていることがわかった。一方、どういうタイミングで有性生殖を行うかは未だわかっていない。写真01, 04=伊勢戸徹 02, 03=杉山渚

### 廣瀬研

**広**瀬研で私はウミウシ類の食性を研究しているのだが、ウミウシというやつ、実にさまざまなものを食う。

「カイメン食いや刺胞動物食が多いけど、先生のご専門のホヤを食うやつもいるし、伊勢戸くんの専門のコケムシを食うやつもいるのよね」と、進学して間もない頃に研究室で話したところ、

「コケムシと、僕のやってる内肛動物とは別の生き物ですよ」と、先生の一番弟子で、当時は琉大非常勤講師だった伊勢戸徹さん（現在京都大学瀬戸臨海実験所助教）に指摘された。

「は？コケムシと内肛動物は同じとちゃうん？」  
「ちがいます！昔は一緒くたにされてましたけど……。コケムシは外肛動物で、僕のやってるのは内肛動物。内肛動物には単体性と群体性があって、群体性はスズコケムシと呼ばれてますが、僕のは単体性のほうなんです」

「伊勢戸くんのやってる単体性のはナニムシっていうの」  
「いや、それが、……そういう呼び名、ありませんねん」  
「いちいち〈ナイコウドウブツ〉と呼ぶの？めんどくさい〜」  
「やっぱり〈なんとかムシ〉とか〈ウミなんとか〉みたいな名前があったほうがいいですね」

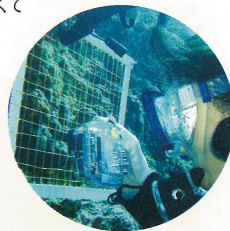
この日以来、広瀬研メンバーは単体性内肛動物の

ことを「ナイコー」あるいは内肛動物研究の第一人者である伊勢戸博士に敬意を表して「イセムシ」と呼ぶようになった。

このイセ……ではなくナイコー、私が知らなかったのは単なる勉強不足だが、実際研究はそれほど進んではない。というのも、あまりに小さいからである。触手の先から足の先まで、わずか1ミリくらいしかない。スキューバのスキルと見つける眼力、その小ささの生物を撮影できる機材（を扱う技術）がないとフィールドでの観察は難しい。研究するにはハードルの高い生き物なのだ。

**そ**のハードルに果敢に挑戦したのが私の後輩のひとり、杉山渚さんだ。彼女は琉大ダイビング部で修行を積み、視力1.5を誇り「魚より無脊椎動物のほうがおもしろい」と豪語する。一方でお洒落にもさっぱり気を配る、可愛い女の子だ。杉山さんは自分が研究する内肛動物を、その属名 *Loxosomella* からこっそり「ソメラちゃん」と呼んでいる。

「私のソメラちゃ……ではなくてナイコーはカイメンにつくんですけど、カイメンによってつくナイコーの種類が違うんですよ。たくさんつくカイメンの表面が〈ぼわぼわ〉とか



04

〈ふさふさ〉とか、そんな感じになるんです」

**カ**イメンの表面につく内肛動物のグループを、親しみを込めて「カイメンツキ」と呼び、杉山さんはメインテーマの生態研究の他に、その分類にも励んでいる。

「初めて見る種かどうかは雰囲気わかります」  
「未記載種、今まで何種見つけたの？」  
「えっと、14種くらい」  
「え！もうそんなに？」  
「つい見つけてしまうんです〜」

ウミウシも未記載種が多いが、内肛動物に至っては未記載種だらけだ。それにしても研究を始めて、わずか2年半で10種以上も未記載種を見つけるなんて！「初対面ばいのは、まず撮影。次に愛称をつけます。煙突状のカイメンにつくのはエントツキ、首（柄部）が黒くて、他のナイコーに比べて大きめなのはククロクビク、といった感じです。とりあえずでも名前をつけとかないと、どれがどれかわかんなくなっちゃうので。それから同定。未記載種だと判明したら、学名をつける準備にかかります」

学名をつける作業は研究者のお楽しみですが、呼びやすい日本語名もこの際だからつけてほしい。いちど聞いただけで内肛動物の特徴がわかる、そんな和名がいいいな！

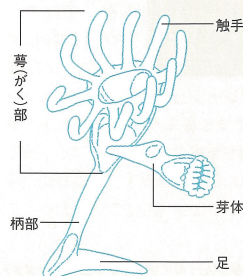
文=中野理枝

**Profile**>> 87年OW取得。96年あたりからウミウシに目覚める。小野篤司さんの「ウミウシガイドブック1」「沖繩のウミウシ」を編集。『本州のウミウシ』を編集・執筆。2007年4月、琉球大学大学院に進学。雑誌・書籍の編集や執筆の仕事の続けながら広瀬研究室にてウミウシ研究に邁進中。

**監修**=広瀬裕一  
琉球大理学部海洋自然科学科教授・理学博士

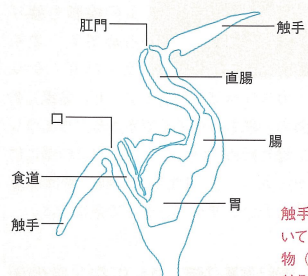
**Profile**>> 91年理学博士取得。その後3つの大学を転々として、97年より琉球大学に勤務。初スノーケリングは小五。SCUBAは30半ばからなので、弟子たちの方がずっと上手い。 [www.geocities.jp/lissoclinum/Tunicata](http://www.geocities.jp/lissoclinum/Tunicata)

### 内肛動物の体制 (伊勢戸, 2005より改変)



単体性内肛動物の無性生殖について：萼部の斜め前方から分身（芽体）が生えてきて、ぼろりと親から離れる、という増え方をします。遊離した芽体は水中を泳いだり、体をよじらせて海底を這ったり、足を使って歩いたり(1)して、やがてお気に入りの場所を見つけて定着する。一方、有性生殖で生まれた子供（幼生）も水中を泳ぎ、お気に入りの場所を見つけたところで変態、大人の形になって定着する。

### 内肛動物の萼部の縦断面 (Mariscal, 1965より改変)



触手の内側に肛門が開いている。対して外肛動物（コケムシ）は触手の外側に肛門がある。